

第11次派遣(住田) 7月10日(日)～7月16日(土)

矢野 尚さん(北海道)
川合 淳さん(静岡)
班長: 佐藤 理さん(北陸)
加藤 公紀さん(東海)

《全労金第11次派遣出発！！》 7月10日

第11次派遣メンバーが住田ベースキャンプに向けて出発しました。

第11次派遣メンバーは、北陸労組佐藤書記長を班長に、北海道労組矢野さん、静岡労組川合さん、東海労組加藤さんの4名です。

班長をお願いする北陸労組の佐藤書記長(全労金中央執行委員)は、ボランティアのために髪をバツサリと切り、準備万端で出発されました。

住田ベースキャンプは、7月24日から学生ボランティアの拠点地として引き継ぐため、連合からの派遣もあと2週間となります。第11次メンバーには、これまで全労金派遣メンバーに引き継がれたタスキをしっかりと受け取り、アンカーへ引き継ぐという重要な役割もあります。全国の仲間からのエールをお願いします。



《左から、加藤さん、佐藤さん、川合さん、矢野さん》



《第9次からはじまった恒例の団結ガンバロー！！》

《明日からの活動に向けて》 7月10日



今日は、10時30分ぐらいに連合本部を出発して、途中休憩や入浴を済ませ19時前に住田BCに無事到着しました。長い移動時間にも関わらず全労金の4人は、応援コメントに勇気付けられて明日からの活動に英気を蓄えています。

住田BCに到着後、夕食を済ませてから班長会議があり、明日からのボランティア活動の確認が行われました。

今回の住田BCは、総勢60名が集い、大船渡と今回から活動を行う陸前高田市に分かれてボランティア活動にあたります。

全労金の4名は、連合の仲間40名とともに大船渡での活動となります。東北地方の梅雨明けはまだですが、今日はかなり蒸し暑く、明日以降もこの暑さ日が続くそうです。しかし、明日からの1週間暑さに負けず、これまでの活動や思い、そして全国のみんなとの絆を引き継ぎながら、無理せず頑張っていきたいと思います。（報告者 佐藤）

《活動初日》 7月11日



第11次派遣4名は、長旅の疲れをほぼリセットし、皆さんの励ましのメッセージを力に、体調万全で活動初日を迎えました。夏らしい晴天の中、住田BCを出発し、大船渡の社会福祉協議会にて本日の活動内容を確認。その結果、大船渡市内で2組に分かれての活動となりました。

全労金4名を含む総勢30名は、JR大船渡駅近くのマンションに赴き、浸水した部屋の壁や天井の解体作業、撤去、清掃等を行いました。昨日よりは幾分過ごしやすく、直射日

光が当たらない作業とはいえ、30度近くの気温（ちなみに本日、岩手は平年より17日早く梅雨明けとなりました）。ヘルメット、ゴーグル、マスク、ゴム手袋のフル装備が必須の作業であり、暑さとの戦いとなりましたが、適度に休憩をとったこともあり、モチベーションを下げることなく活動できました。

本日の昼休み、活動場所周辺を歩いた際、衝撃的な光景を目の当たりにしました。真ん中から二つに折れた電柱、壁が無くなり傾いたままの建物、駅舎の姿はなくホームだけとなっている駅、線路の上には瓦礫が山積していました。ここが駅前の中心街だったとは・・・。今、私たちが見ても恐怖を感じる位の状況、住民の方々がどれほど恐ろしい思いをし、どれほど無念であったか・・・想像することもできません。ただ、街の中には随所に復旧・復興への決意がこもったメッセージがありました。私たちの活動は微力ですが、地域の皆さんと共に復興へ向けて少しでも力になればと、決意を新たにしました。

午後には、地震もありましたが混乱はなく、組織の垣根を越え、自然に協力し合いながら活動を進めることができました。やはり、働く仲間の一体感はさすがです！明日も、同様の活動が予定されています。体調に留意しながら、頑張っていきたいと思います。（報告者 矢野）

《二日目終了》 7月12日



第11次二日目の作業も無事終わりました。

今日も前日に引き続き、大船渡駅前にあるマンション2棟に向かい、午前中は部屋の壁を剥がし、砂や石膏などで散らかった床の清掃作業を行いました。ここまではほとんど昨日と同じ作業でしたが、午後からは高圧洗浄機を使って壁や床の汚れを徹底的に取り除く作業を行いました。

マンションは3階でも津波による被害は著しく、マンションとして再生するためには壁そのものから作り直さなければいけないようです。当然、震災前は一つ一つの部屋にそれぞれの「生活」があったはずであり、この部屋で築かれてきた生活を一瞬にして奪ってしまった地震と津波の威力の凄まじさにただただ恐怖を覚えます。しかし、

自然を前に人間は無力、とは言うものの、そこから立ち上がる大きな力が人間にはあると確信しています。今回集まった全労金4人の力、連合ボランティア総勢約70人の力、この活動に関わり応援してくれる全ての仲間の力、一日も早い復旧を願って止まないと皆さんの人々の力…あらゆる力を結集して、一刻も早く被災地に普通の生活が戻るよう、「今できること」を皆で精一杯頑張っていきたいと思います。

夕飯の後、連合岩手気仙地協の吉野事務局長から、震災当日の様子をお話いただきました。報道では語られていない被災現場の状況、避難しようと逃げ惑う人々の姿など、ボ



ランティアとして被災地を訪れたからこそ聞くことのできたお話に、私たちは言葉を失いました。地域が復旧したとしても、私たちはこの震災を決して忘れてはならず、この教訓を必ず将来に生かしていかなければなりません。

明日からはまた違う場所での作業となるようです。私たち4人は、引き続き明日も元気に頑張ります。（報告者 川合）

《活動三日目終了》 7月13日



《浸水した家屋の壁を取り壊している佐藤書記長(脚立上の右側)と矢野書記次長(脚立上の左側)》



《取り外した壁の廃材の釘抜きをしている川合青年委員長と私(加藤)。4人のチームワークはバッチリです!》



《津波によって廃車となった車が山積みされている光景。何百台と積まれており、凄まじい光景でした》



《毎日配られる昼食のおにぎり2つ。具が毎日違うので、私の密かな楽しみとなっています(笑)》

ボランティア活動三日目も無事終了しました。今日の作業は、浸水した民家の壁の取り

壊し、家具の運び出しでした。午前中は太陽の日射しが強く、屋内作業でありながら暑くて大変でしたが、お昼の休憩中に局地的な大雨が降り、気温も和らいだため、午後からの作業はとても良い環境で行うことができました。

作業場所に向かう途中、津波に流されて廃車となった車が山積みになっている光景を目にしました。昨日、被災者の方の話の中に、車で津波から逃れようとした人達が、渋滞で、次々に津波にのまれていったというのを思いだし、とても胸が苦しくなりました。

また、作業の休憩中、作業の依頼主である老夫婦とお話をすることができました。地震が起こった直後、過去の経験もあり、津波が来ることがすぐにわかったそうです。その叔父さんは、まず先に近くの水産工場の従業員や、近隣の住民に避難を呼びかけ、自分は周りが全員避難したのを確認した後に逃げたそうです。最後は走って津波と競争して何とか助かったと笑いながら話されていましたが、私はその叔父さんの人を思う心に胸を打たれました。その話は、まさに、今、我々にとって非常に大切な「助け合い」の精神ではないでしょうか。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」、英語で言えば「one for all, all for one」やはり人間は助け合わなければ生きていけないと思います。日本中、世界中の人々がこの言葉を忘れないでほしいと切に願います。

最後に、このブログをご覧のみなさん、いつもコメントありがとうございます！私たち4人はみなさんのコメントを見るのを非常に楽しみにしています！みなさんの声を糧に、明日からのボランティア活動を頑張っていきたいと思います！（報告者 加藤）

《活動四日目終了》 7月14日



四日目のボランティア活動も、無事終わることができました。今日の活動内容は、大船渡市立第一中学校のグラウンドに建設された被災者用の仮設住宅 への米や生活物資などの搬入作業でした。まず社会福祉協議会に保管されている米をトラックに積み込み、仮設住宅に運び入れました。その後、生活に必要な布団やテーブル、食器など8点をトラックからおろし、仮設住宅の各部屋の玄関前に運んだ後、室内に搬入するという作業です。今日作業した仮設住宅は120世帯分が建設され、そのうち約 90世帯は入居が決まっています。

明日の説明会以降に入居が開始されるそうで、残りの30世帯についても立地場所が良いため、すぐに入居者が決まるとのことでした。

冒頭に掲載してある船の写真は、津波被害の大きかった大船渡市中心部から約2km離れた住宅地に津波によって流された漁船のものです。これを見た瞬間は、言葉を失うほどの衝撃を受け、東日本大震災での津波の破壊力は、想像を絶する規模だったことを改めて思い知らされました。

今日ボランティア活動をした中学校の窓ガラスには、「災害は有限、希望は無限」という生徒が作った横断幕が張られていました。子供たちは、未曾有の大災害にあっても前を向き、小さくても無限の希望に満ち溢れた心で歩んでいることがわかり、熱い思いが込み上げてきました。

どんなことも諦めたら希望は叶わない、進む距離が違ってても諦めずに前を向いて歩み続ければ、いつか希望は叶うのだと思います。私たちが出来ることは小さくても、この活動を続けることで復旧・復興に繋がるはず、いやきっと繋がるのだと確信を持ち、今後もボランティアを始めとする様々な取り組みを進めて行きたいと思います。（報告者 佐藤）



《活動最終日》 7月15日



《本日の昼食》】



《洗浄後のマンション室内》】

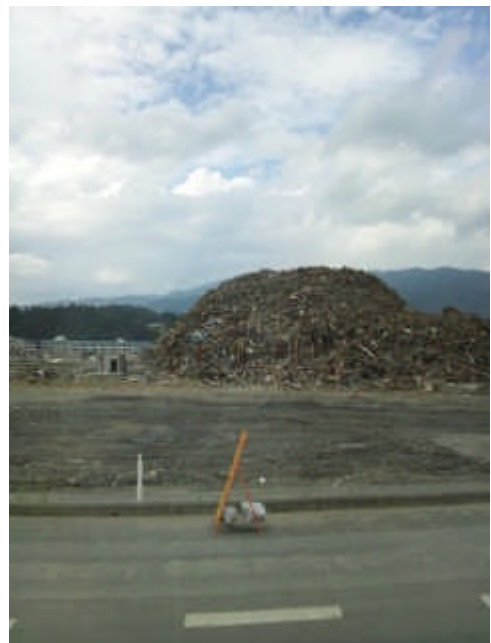
第11次派遣の活動も、ついに最終日となりました。当初は不安もありましたが、あっという間の5日間でした。連日30度を越える中での活動で、疲労は蓄積されていますが、気力はしっかりと維持しています。

5日目の活動は、1～2日目と同じマンションにおいて、さらに丁寧な洗浄作業を行いました。本日も暑い中での活動となりましたが、我々4名と日教組の方々5名の総勢9名が一体となって取り組み、事故や怪我もなく無事に全活動を終えることができました。

お昼ご飯には、定番となっているおにぎりをいただきました。ちなみに本日の具は「こんぶ」でした！食べ物のお話しと言えば、五葉温泉名物「ひつつみ汁」です。だしが効いた汁に「すいとん」が入っており、非常に美味で、活動の疲れを取るには最適な一品でした。長野労組上田委員長、貴重な情報ありがとうございます！

さて、話しは戻りますが、本日の作業終了後、第10次派遣の皆さん同様、陸前高田市を経由して帰路につきました。市内の状況は、想像を絶するものでした。市街地の建物はほとんど残っておらず、街ごと大津波に飲み込まれてしまったと言っても過言ではないと思います。案内していただいたバスのドライバーの方が、「この辺りは震災前、民家や商店が立ち並んで海は全く見えなかったが、今でははっきり見えている」と話していました。確かに視線を向けてみると、基礎だけが残った建物や数える程のビル、高く積まれた瓦礫の山だけがあり、その向こうに海が見えていました。なにもかもを飲み込んでいった大津波・・・言葉を失いました。陸前高田の復旧は遅れているそうです。社会福祉協議会の職員の中にも亡くなった方がおり、スムーズに活動が進まない事情もあるようです。まだ、多くの支援が必要です。ただ、被災者の方々は復旧・復興へ向けて、懸命に頑張っているとのことでした。

そんな状況の中、今月10日に津波で流された交通の動脈、「気仙大橋」が通行できるようになったそうです。この橋が復旧・復興へ向けた懸け橋となることを切に望みます。夜に開かれた解散式にて、住田BCの責任者である連合岩手、小野寺副事務局長の挨拶が印象的でした。「本当にありがとうございました」と深々と頭を下げた後、「厳しい状況だが、自分達には多くの仲間がいるんだと感じた」と涙声で語っていたのを聞き、こちらも胸が詰まりました。私たちは、皆、仲間です。どんな状況であっても仲間です。その仲間はかけがえのない存在であり、真の仲間であり続けることが大切だと改めて感じました。この間、本当にたくさんの応援のコメントをいただき、ありがとうございました！日々の活動の原動力になりました。ただ今、バスで東京へ向かっています。到着後、第11次メンバーそれぞれの感想をブログに掲載したいと思います。（担当 矢野）



《陸前高田市市内の状況》



《無事東京に到着》 7月16日



第11次メンバー4人は無事東京に到着しました！今回のブログが私たち4人の最終ブログとなります。最終ということで、メンバー全員の感想を載せたいと思います。みなさん、今までたくさんの応援コメントありがとうございました！みなさんからはたくさんのパワーをいただきました！本当にありがとうございました！

《北陸労組 佐藤》

無事、東京に戻ってきました。班長として事故やケガもなく、ボランティア活動を終えることができたのも、矢野書記次長や加藤青年委員長、川合青年委員長の協力のおかげであり、各出身単組のバックアップや全国の仲間の応援もあったからです。ありがとうございました。被災地での1週間のボランティア活動は、私にとってかけがえのない大切なものを得ることができました。それは人と人の繋がりであり、簡単に切ることのできない「心の絆」だと思います。相手を思いやり、諦めずに助け合う心です。被災地の復旧・復興には、まだまだ多くの時間を要します。だからこそ私たちが力を合わせて様々な取り組みを行う必要があるのです。被災された多くの方々が、本当に心の底から笑える日まで、全国の仲間とともに私も頑張ります!!

《北海道労組 矢野》

どんなかたちでも、誰かが困難に直面している時に協力することはできると思いますが、今回は、より直接的に関わることができて本当によかったと思っています。そして、被災地の皆さんからは強い気持ちや教訓等、多くのものをいただきました。私が今回の活動へ参加するにあたり、ご協力いただいた全ての方々に感謝致します。また、本活動で連合に集う仲間の一体感の強さを改めて感じました。普段は、居住地も職場も異なる初対面の人々ですが、自然なかたちでお互いを気遣い、寝食を共にしながら協力して力強く行動できる素晴らしい仲間です。とりわけ、全労金に集う仲間には、さらに強い絆があります。今回のブログへいただいた、多くのコメントからもそれを実感しました。今後も被災地の復旧・復興へ向けて、皆で連帯して継続的な取り組みを実行していければと考えます。私も微力ながらしっかりと貢献していきたいと思っています。第12次派遣の皆さん、体調に留意し

ながら頑張ってください！心から応援しています！

《静岡労組 川合》

あっという間の一週間でした。「テレビで見るのと実際見るのとでは被災地の印象は全然違う」と聞いたことがありましたが、まさにその通りで、大船渡や陸前高田の惨状を目の当たりにし、言葉を失うほどの衝撃を受けました。一人だけの力で立て直すことはとても不可能。しかしたくさんの人の力を合わせれば、いつの日かまた生き活きと輝く街が、景色が、生活が戻るはずです。その日が来るまで、力と心を合わせ、皆で一つになって頑張しましょう。今回のボランティア活動に対して、たくさんの方から応援をいただきありがとうございます。第12次派遣の皆さんも頑張ってきてください。

《東海労組 加藤》

私は今回のボランティア活動を通じて、「仲間」の大切さを改めて感じました。どんなに「絶望」的な状況でも、仲間と助け合うことで、無限の「希望」が持てることを確信しました。被災された方々が元の生活に戻る本当の意味での「復興」には時間がかかると思います。しかしこれからも継続してボランティア活動を行い、仲間と助け合っていけば、きっと希望に満ち溢れた将来が待っているはずです。明日から出発する第12次メンバーのみなさん、私たちの思いを胸に、1週間がんばってきて下さい！全国から応援しています！

以 上